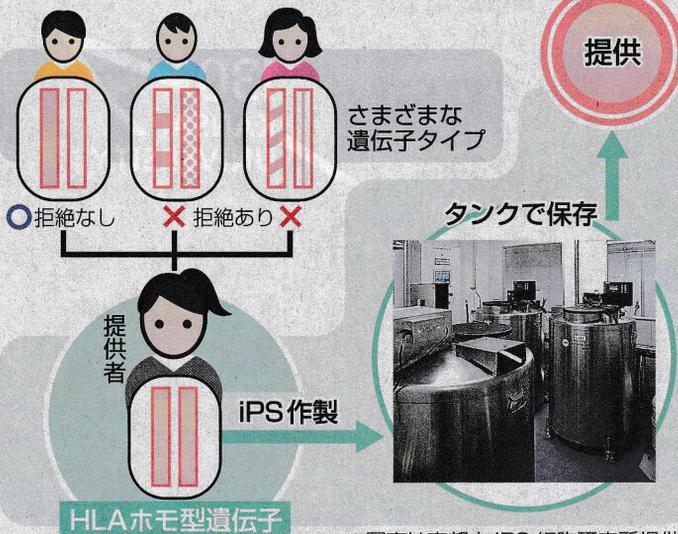


iPS細胞ストック



1面から続く

備蓄 時間と費用抑え提供可能

輸血や移植などで幅広い人に再生医療を応用するには、拒絶反応を起こしに

く健康な他人から作った iPS 細胞（人工多能性幹細胞）が不可欠となる。京都大 iPS 細胞研究所では、他人由来の iPS

細胞をストックする体制づくりが進む。事前にがん化のリスクを取り除いて備蓄することで、患者に早く提供できるようにするためだ。

拒絶反応を引き起こしにくい細胞の型は「HLA型ホモ」というタイプに分類される。HLAのタイプは、親からそれぞれ受け継いだ一对の遺伝子で決まる。両親から同じ遺伝子を受け継ぐ人がHLA型ホモで、千人に約1人の割合で生まれる。75種類のHLA型ホモの iPS 細胞をそろえれば、日本人の80%に移植できるようになる。

治療時に患者から iPS 細胞を作って必要な組織を作る場合、移植までにかかる期間は半年以上となり、

治療全体の費用も数千万円になる可能性がある。ストックでは、正確な数字は不明ながら、時間も費用も抑えられる可能性が高いという。

同研究所は昨年8月、日本人の17%に移植できる1種類のHLA型ホモの iPS 細胞を、外部の研究機関に供給し始めた。さらに種類を増やして、2017年度末までに日本人の30~50%をカバーできるようにする予定だ。

いのちとの
伴走
iPS細胞誕生10年